

令和7年度学校関係者評価(最終)報告書

学校(園)名: 広島大学附属三原学校園

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	報告書	成果	自己評価(最終)		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策					
							課題、改善策	評価	意見・理由	評価						
												自己評価	学校関係者評価			
A	1. 教育課程特例校制度のもと学力向上に努める。 ①「光輝」の実践を通して、汎用的な接続カリキュラムを作成し、実践する。(異職種間交流・異学年交流を計画的に進める。) ②「光輝」の授業と体系的な学習指導・生徒指導を一体的に行い、子供自身が成長を実感できる実践を行う。 ③これまでの「光輝」の総括を進め、次期研究開発の方向を確定する。	①幼小・小中の接続カリキュラムの更新と交流カリキュラムを計画的に作成・実施し、質的評価として抽出した子供の姿容を分析するなどして、子供への効果を検証する。 ②「光輝」と教科指導、生徒指導を一体的に実施し、評価活動を行い、子供自身が成長を実感できる実践の効果や課題を、子供の姿容等から明らかにする。 ③「光輝」の総括を行い、成果と課題を文書にまとめ、次期研究開発の方向を確定する。	①幼小・小中の接続カリキュラムの更新と交流カリキュラムを計画的に作成・実施し、質的評価として抽出した子供の姿容を分析するなどして、子供への効果を検証する。 ②各教科キヤップは、幼小接続部会、小中接続部会、各教科の生徒指導部と連携して、「光輝」と教科指導、生徒指導を一体的に実施し、評価活動を行い、子供自身が成長を実感できたかどうか、実践の効果や課題を、子供の姿容等から明らかにして、レポートにまとめる。また、その後の実践を含めて、各部会のキヤップ、各教科キヤップは令和8年1月までに子供の姿容から効果や指導方法の工夫、「光輝」と教科の往還の関係性、系統表の修正等を経過レポートにまとめる。 ③次期研究開発企画担当者が、「光輝」の総括を行い、成果と課題を文書にまとめ、次期研究開発の方向性を示す。	4枚	①相互参観授業や事後交流を通して、幼小接続部会の教員が共通して持っている「マインドセット」を見取り、子供とともに学びを向上させていく。教師側には「粘り強さ」や「協働性」を高め、定着させたことは、自伸会三信條に通じるものがある。社会に出て未曾有の災害に遭った時やパンデミックが起こった時に対応できるように、生きる力の基礎力・応用力を子供たちが身に付けつつあることもわかり、とても共感できた。また、教師の「信じて待つ」、「スモールステップ」に挑戦させる、「適切なタイミング」の励まし等、幼小中での連携も子供たちの成長に大きな役割を果たした。 ②「光輝」の総括として、教師間の強みや課題を文書にまとめ、次期研究開発に反映していく。	B	①「光輝」の総括として、教師間の強みや課題を文書にまとめ、次期研究開発に反映していく。	B	①「光輝」の総括として、教師間の強みや課題を文書にまとめ、次期研究開発に反映していく。							
										2. 小学校・中学校が連携して学力向上の取り組みを進める。 ①基礎学力定着についての研究を進め、連絡入学制度について広い視野から見直し作業を進める。 ②連絡入学制度の利点を活かして、コミュニケーション・共感性等社会的資質・能力を育成する。 ③これまでの「光輝」の総括を進め、次期研究開発の方向を確定する。	①子供の学力や生活状況に関するデータを収集・分析し、発達段階に応じた体系的な学習指導と進路指導の在り方を明らかにする。また、幼小中合同会議で連絡入学制の見直しを検討する。 ②情報を共有しながら連携し、「光輝」の授業の中で、学力向上に繋がるコミュニケーションとレジリエンスの基本技術を系統的に習得する。	①成長支援部会では子供の学力や生活状況に関するデータを収集・分析し、発達段階に応じた体系的な学習指導と進路指導の在り方を、小・中の進路指導学力向上担当と連携して明らかにし、レポートにまとめる。また、レポートをもとに幼小中合同会議で広い視野から連絡入学制の見直しを検討する。 ②幼小・小中接続部会が「光輝」の授業の中で、学力向上に繋がるコミュニケーションとレジリエンスの基本技術を系統的に習得するための単元を開発し、その成果と課題をレポートにまとめる。	3枚	①複数のアンケート結果の傾向性を見ることで、学校現場における実践改善につながる知見を得ることができた。今後、教師の「粘り強さ」や「協働性」を高め、定着させたことは、自伸会三信條に通じるものがある。社会に出て未曾有の災害に遭った時やパンデミックが起こった時に対応できるように、生きる力の基礎力・応用力を子供たちが身に付けつつあることもわかり、とても共感できた。また、教師の「信じて待つ」、「スモールステップ」に挑戦させる、「適切なタイミング」の励まし等、幼小中での連携も子供たちの成長に大きな役割を果たした。 ②「光輝」の総括として、教師間の強みや課題を文書にまとめ、次期研究開発に反映していく。	B	①「光輝」の総括として、教師間の強みや課題を文書にまとめ、次期研究開発に反映していく。
1. 学校園における全ての業務(日々の教育活動や研究開発、教育実習等)を自己能力の伸長過程と捉え、自らの成長を俯瞰的に評価し記録する。	①学校経営方針に基づいた目標を職員が立て、その目標の達成度合いに応じて総合業績評価を行う。 ②全ての業務を自己能力の伸長過程と捉え、自立的に自己研鑽力に努める。 ③大学との共同研究や個人研究を企画し、研究費獲得を目指す。 ④子どもの成長を自覚し、職能を高めていく。	①職員全員が学校経営方針に基づいた行動目標、成果目標を立てて実践する。 ②校務分掌上の役割や校内研修での役割の遂行状況を客観的に把握し、自己能力の伸長を、全職員が自己評価する。 ③学校園全体で2件以上の学会発表あるいは、論文発表を行う。	2枚	①年度当初に各自が設定した個人業績表の設定項目の達成に向けて鋭意取り組みができた。 ②現状点では校務分掌上の役割や研究開発の推進、教育実習等の役割等を行っていた。中学校では、今年度中堅教諭等質実向上研修を実施しており、多くの教員が研修に携わっており、職能成長に繋がっている。 ③令和8年1月までに学校園全体で18件の学会発表・17本の論文発表を行った。	B	①「光輝」の総括として、教師間の強みや課題を文書にまとめ、次期研究開発に反映していく。										
							2. 校種に応じた業務の遂行にとどまらず、校種の違いを尊重し合いながら、経営資源を効率よく活用し、学校経営方針に従って時間管理と個々の働きやすさを追求する。	①経営資源の効率的な活用を念頭に、学校園全体として業務内容の精選や校務分掌の標準化、時間割の弾力的な運用等を行う。 ②1年を通して1人当たりの月の時間外労働時間が38時間未満となるように職員が一人丸となって業務を遂行する。	①契約職員の積極的な活用を行い、教職員の80%以上が、業務が軽減したと答えた。 ②週に1日、一斉退職日を設け、退職時間を定め厳守する。 ③安全衛生委員会でのメンタルヘルスに関する研修を定期的に行い、委員はそれぞれの所属で研修内容を還元する。 ④1人当たりの月の時間外労働時間が38時間未満となるよう、業務の標準化、職員の発想の転換、意識改革を進めていく。	3枚	①教職員の91%が、契約職員の積極的な活用を行い、その内97%が業務が軽減したと答えた。 ②週に1日、一斉退職日を設け、退職時間を定め厳守する。 ③安全衛生委員会でのメンタルヘルスに関する研修を定期的に行い、委員はそれぞれの所属で研修内容を還元する。 ④1人当たりの月の時間外労働時間が38時間未満となるよう、業務の標準化、職員の発想の転換、意識改革を進めていく。	C	①「光輝」の総括として、教師間の強みや課題を文書にまとめ、次期研究開発に反映していく。			
														3. 学部生・大学院生の教育実習と非常勤講師の職務を充実させ、実習満足度を高水準に保ち、また非常勤講師の職務満足度を高めることで、指導する側も教育実践を見直す場を設定し、指導者自らの成長を自覚し、職能を高めていく。	①学部生や大学院生の教育実習を充実させ、実習満足度を高水準に保つとともに、指導する側にも教育実践を見直す場を設定し、指導者自らの成長を記録し、職能を高めていく。 ②非常勤講師の職務満足度についてアンケート調査を実施し、成果と課題を整理し、職員間で情報を共有することで、非常勤講師のサポート体制を作り実践する。	①教育実習生対象のアンケート調査で実習満足度に関して8割以上の肯定的評価を得る。教育実習部で指導を行った職員の振り返りを共有する取り組みを行う。 ②非常勤講師の職務満足度についてアンケート調査を実施し、成果と課題を整理し、職員間で情報を共有することで、非常勤講師のサポート体制を作り実践する。
1. 「わかりやすさ」を追求した情報発信を行うとともに、他の学校園からの依頼(研究協力や講師派遣、学校園視察等)には積極的に応じる。また、地域教育機関と連携して取り組んだ、全国的に見られる地域課題の解決に向けた研究について、取組状況を発信していく。	①HPとコンテンツを随時更新し、教育活動の成果が閲覧者に伝わるようにする。 ②HP中のコンテンツや他に発信したものに、アンケートフォームのURLを貼り付け、受信者からの評価が得られるとともに、全国あるいは地域における先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。	①広報部会が中心となってアンケート調査を行い、分かりやすさに関して8割以上の肯定的評価を得る。 ②令和7年12月まで広報部会が中心となってアンケート調査を行い、すべての項目に関して8割以上の肯定的評価を得る。また、評価に基づいた改善点については、広報部会が中心となって検討し、随時HPで公開する。 ③他の学校園が依頼しやすいHPづくりを広報部会が行う。研究主任が中心となって依頼に対応するとともに、事後アンケートを用いて改善を図る。	1枚	①研究だりの保護者アンケート調査(3項目)から、光輝に関しては、異学年交流や異職種間交流の実践に対して、97%以上の肯定的回答を得た。紙面の配布だけでなく、リツイート配信や教師の語りや声援により、多くの保護者から評価が得られた。 ②三原学校園の研究や実践の成果をより一層発信していく。 ③三原学校園の研究や実践の成果をより一層発信していく。 ④三原学校園の研究や実践の成果をより一層発信していく。	B	①「光輝」の総括として、教師間の強みや課題を文書にまとめ、次期研究開発に反映していく。										

・ 広 報	2. 本学校園に在籍する子供及びその保護者に対して、附属三原らしい教育活動とその成果を分かりやすく説明し、学校経営に対する理解を深めていく。	(該当項目なし)	①在籍する子供とその保護者に対してさまざまな機会(授業、参観日、懇談会、学年通信、HP等)に「自ら伸びよ」の教育理念や三原学校園の使命、学年目標、それらに基づく教育活動とその成果を分かりやすく説明し、理解を深めていく。	① i) 年2回、子供対象と保護者対象の学校評価アンケートを各校種の主幹教諭が教務部と協力して実施する。 ii) 子供対象の学校評価アンケートで学習指導や生徒指導に関する項目で8割以上の肯定的評価を得る。 iii) 保護者対象の学校評価アンケートで学校の教育活動に関する項目で8割以上の肯定的評価を得る。評価結果と改善点を公表し、改善に向けての取組を行う。	1枚	①令和7年6月と令和8年1月に子供対象と保護者対象の学校評価アンケート(幼と小は保護者、中は生徒と保護者)を実施した。保護者対象の学校評価アンケートでは、3枚種の合算で、すべての項目で80%以上の肯定的評価を得た。幼稚園・小学校では、多くの項目で数値の上昇が見られ、日々の保育・教育活動の成果が着実に表れている。中学校においても、教員の授業づくりや他者理解に関する項目で数値の上昇が見られ、未達成の項目は1項目にとどまっていた。また、項目外ではあるが、スマートフォンやインターネットの利用について、他項目と比較すると、依然として低いものの、1月のアンケートでは改善傾向が見られ、数値が向上していた。	①アンケートの結果より、幼稚園では、子供が目的意識を持って挑戦できるような環境づくりや、つまずきを支える援助の改善を行っている。小学校では、家庭との連携を深め、研究成果と保護者の実際の体感のずれの解消に努める。中学校では、ネットモラルや公共交通機関のモラル・マナーの指導を、学校と家庭が一体となって進める。特にスマートフォン等の使用については、小中連携をしながら進めていく。	B	1.ジエンスに関連した、粘り強さやあきらめずにやり抜こうとする姿は、すぐに保護者の目には分かりづらいかもしれませんが、子供の成長過程において気づかされる時がある。家庭への啓発・連携も必要と感じる。モラル、マナーに併せて近隣周辺地域への思いやりも考慮しなければなりません。昨年に行ったアンケート回答率が小学校、中学校共に半分程度と低く、保護者の非協力的なのが多い。アンケートの設問にもよるが、保護者を通して、子供の変化を知るとはなかなか難しいと思う。何よりも生徒自身が「光輝」の時間は自分たちに必要なことを学ばせてくれている」と感じていることが大事である。	B	スマートフォンやインターネットの問題は、犯罪に巻き込まれる事案が多発しており、警察等関係機関との連携をしつつ、児童生徒とともに考えていく。また、公共交通機関のモラル・マナーや、駅前及び陸景広場などでの過ごし方等、以前から指摘されている点についても、保護者とも連携しながら指導していく。
-------------	--	----------	---	--	----	---	---	---	---	---	--

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。
年度 学校関係者評価報告書

評価点	自己評価		学校関係者評価	
	A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である	
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない	
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない	
		E	判定できない	

学校(園)名: _____

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	状況、改善	自己評価	学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
						評価	意見・理由	評価	

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。